



市内の事業所撤退跡地の現況

縄文の村、ガイダンス棟オーブン、古代農村景観再現、縄文時代の廃絶集落の復元を予定、歴史学習や観光客が多くなった。重伝建群奈良井宿・漆工町平沢、短歌の里など広域観光のネットワークを研究。

◆地方交付税の状況と将来

問 平成17年以降前年比交付額減の理由と今後の見通し。

答 税源移譲による収入増と固定資産税増による。平成26年以降、合併特例などがなくなり新市対象となるので景気状況から厳しい見通しとなる。

◆市内事業所跡地の管理

問 事業撤退跡地の管理指導は行政として出来ないか。

答 管理指導権限はないが地元区と連携して不適切な違法行為が明らかになれば警察と連携し環境保全に努力する。

◆都市計画道路の見直し

問 都市計画道路15路線の未整備分の将来見通しは。

答 交通需要等を見通しながら選択と集中により整備に努力する。20、21年度県実施の松本都市圏総合都市交通体系調査結果を踏まえて検証し計画検討する。

◆学力、学習状況調査結果活用は

問 小学6年生中学3年生の調査結果をどう活かすか。

答 国語、算数ともに全国、県平均を上回った。調査対象の学年、教科のみでなく全科全員に反映、個別には三者懇談会等で連携を図る。

◆子どもの安全対策

問 地域見守りシステムの効果と、子機の死角はないか。

答 保護者は位置確認で安心感がある。市街地に死角があるので、改善に努める。

◆町並みの防(消)火体制は

問 重伝建地区や家屋連担地区の防火・消火体制は。

答 奈良井地区は130基の消火栓400の貯水槽を設置し、町裏に防火水路設置等を急ぐ。

◆地球温暖化防止普及啓発

問 市内事業所のCO₂削減策は。

答 ISO30社、環境スタンダード20社と導入が進んでいる。

和の会

質問者 青柳 充茂

中原輝明・白木俊嗣

質問持ち時間50分

10年に1度の危機

厳しさを増す財政

何に選択、集中すべきか

◆維持管理費が急増

問 (仮称)市民交流センターが入る再開発ビルがまもなく着工するというときに、金融・経済危機が襲った。ハコモノ建設は建設費より、維持費が問題。合併特例期間が終わる平成27年度以降の財政は『天国から地獄へ』というくらいに厳しさに直面するのではないか。市民は大変心配している。平成16年以降建設された新規施設の年間ランニングコストを示せ。

答 塩尻東地区センター550万円、宗賀児童館1千500万円、塩尻インキュベーションプラザ1千200万円、大門児童館1千700万円、ふれあいセンター洗馬3千700万円、洗馬児童館1千400万円、北部子育て支援センター2千200万円、吉田児童館分館1千100万円。8施設合計は、1億3千400万円となる。

問 (仮称)市民交流センター完成後のランニングコストはいくらを見込むのか。

答 2億円余を見込んでいます。

◆ハコモノ建設は慎重に

問 (仮称)市民交流センター1施設でこれまで4年間に建てた8施設分の合計を悠に上回る。新体育館建設となるとさらに1億円、合わせて3億円余の維持費増となる。歳入の増加は見込めない状況の中で、ハコモノ建設によって増え続ける維持費が、将来の財政をどれだけ圧迫することになるのか、よく調べる必要がある。市全体の中での体育館や緊急避難施設等のあり方について、もっと時間をかけて研究すべきだ。急いで拙い結論を出すべきではない。

◆一人ひとりが大切な教育

問 元氣っ子応援事業は非常に成果が出ているのでは。

答 保護者の理解・協力が進み、幼・保・小連携事業と合わせて成果が見えて来た。市内外から評価されているのでやりがいがある。

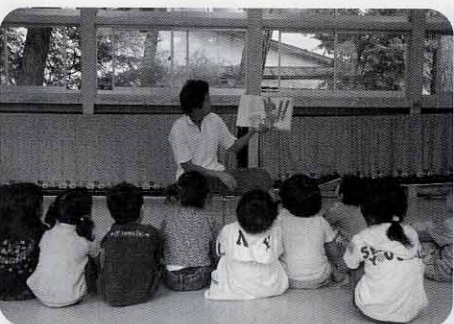
問 評価されている理由は。また、今後の課題は何か。

答 一人ひとりの個性・特性を尊重したきめ細かな教育に適った取り組みだからと考えられる。これからさらに成果を伸ばすためには、先生の多忙をどう解決してゆくかが問題だ。

◆先生の増員は検討課題

問 先生の多忙は、先生の不足ということではないか。先生の不足は、体育館など施設が不足していること以上に急いで解決すべき課題ではないか。思い切って先生を増やすべきだ。

答 当市は現状でも市単独の先生を26人採用し重点配置するなど、県内トップクラスの加配体制を敷いている。先ず、今の人材・組織の活用を図った上で、さらに必要があれば増員ということも検討したい。



元氣っ子相談(読み聞かせ場面の様子)